※令和４年度以降入学生用

学校番号	T3010

令和５年度　インテリア科

教科	工業	科目	工業技術基礎Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	工業技術基礎（実教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

インテリア科では、快適な生活空間を考え、家具等の制作を通して、インテリアデザインや木工等の基礎的・基本的な技術を学習します。この授業では、平面構成の基礎として、線や面のよる構成、立体構成の原理等を学習し、基礎的な作図法を学んだ上で、木材による作品制作を展開します。また、金属や陶土などの様々な素材を使い表現する基礎技法も学習します。

２　学習の到達目標

・インテリアのデザインや木材、陶土など素材に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
・インテリアのデザインや素材に関する課題を発見し、基礎的・基本的な技術を基に判断し解決して表現している。
・インテリアのデザインや素材に関心をもち、加工や表現に向けて意欲的に取り組んでいる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	作図法や木材、陶土等に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 木材、陶土など素材に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。安全や環境に配慮し、技術を活用している。	木材、陶土などの、いろいろな素材を使い、課題を表現する。デザインから制作まで工作機械や工具の取り扱いを学び、製作上の問題解決をめざして思考を深め、適切に判断し、表現しようとする態度を身に付けている。	身近な生活空間にある工芸品や、その素材としての木材、陶土などに関心をもち、表現に向けて意欲的に取り組む態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	立体構成、木材による作品制作	実習オリエンテーション 安全教育 立体構成の課題 構成の原理や具象の構成、素材を生かした構成課題	a：立体構成や木材に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。安全や環境に配慮して技術を活用している。立体構成や木材に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 b：立体構成や木材、陶土など、いろいろな素材を使い表現する際の課題解決をめざして思考を深めている。 c：身近な生活空間にある立体構成や工芸品に関心をもっている。木工、陶芸に関心をもっている。	作品 レポート ワークシート 自己評価 相互評価	作品 レポート 自己評価 相互評価	授業態度 作品 レポート 自己評価 相互評価
2学期	陶土による作品制作	木材、陶土を使った立体構成の課題 構成の原理や具象の構成、素材を生かした構成課題	a：立体構成や木材、陶土に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。安全や環境に配慮し、技術を活用している。立体構成や木材、陶土に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 b：立体構成や木材、金属、陶土など、いろいろな素材を使い表現する場合の課題解決をめざして思考を深めている。 c：身近な生活空間にある構成や素材の効果に関心をもっている。木工、陶土陶芸に関心をもっている。	作品 レポート ワークシート 自己評価 相互評価	作品 レポート 自己評価 相互評価	授業態度 作品 レポート 自己評価 相互評価

※令和４年度以降入学生用

3学期	陶芸・立体構成	実習オリエンテーション 安全教育 陶土を使った立体構成の課題 構成の原理や具象の構成、素材を生かした構成課題	a：構成や素材の効果、陶芸に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。安全や環境に配慮し、技術を活用している。陶土に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 b：構成や素材の効果、木材、陶土など、いろいろな素材を使い表現する際の課題解決をめざして思考を深めている。 c：身近な生活空間にある構成や工芸品に関心をもっている。木工、陶芸に関心をもっている。	作品 レポート ワークシート 自己評価 相互評価	作品 レポート 自己評価 相互評価	授業態度 作品 レポート 自己評価 相互評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度